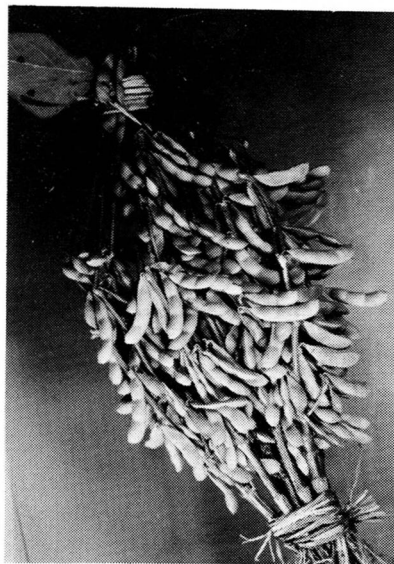


新発表

エダマメ新品種 ユキムスメ

園芸部長 中原 忠夫



ユキムスメ

ダイズはむかしからわが国の食生活の面で、調味料や、蛋白質の給源として果たした役割りは大きい。今後ともその重要性はかわらないであろう。エダマメはつまみとしてビールの消費量を示すバロメーターのようにみられているが、栄養面からみて、もっともすぐれたダイズの利用法である。現在は冷凍食品の普及によって、冷凍されたエダマメが年中利用されるようになってきている。しかし一方エダマメはきわめて鮮度の要求されるものである。冷凍ものと新鮮なものとの間に食味に大きな開きがあり、そこになまものの市場要求が生じ、良質なものを、有利な品うす時期に出荷しようとして周年にわたる栽培がこころみられている。

エダマメの一般的作型である促成、早熟用に用いられている品種は、日長感応のにぶい夏ダイズ系で、北海道産のものが多く、代表的な品種としては奥原1号、袖振（早生緑、白鳥）などである。これらの品種は、栽培体系の多様化、また市場の要求に問題がないわけではない。エダマメの条件を整理してみると、

① 早生で、枝つきのまま出荷に適した草姿で

あること。

② 莢は鮮緑で、毛茸は少なく、毛茸の色が、外観、色を左右するので白毛が好ましい。

③ 大莢で、3粒莢割合の高いこと。

④ 多収、さらに着莢が多いばかりでなく、密につくこと。

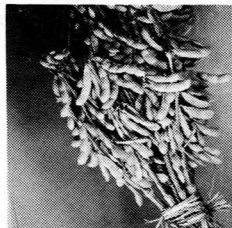
⑤ 食味のすぐれていること。

などがあげられる。

ダイズの品種改良は主として子実用について、国の試験場で進められている。子実用ダイズのうちエダマメとして利用できるものもあるが、多くの場合、熟期、草姿、品質、食味、エダマメ収量などの点で問題になる。

弊社ではエダマメが北海道の特産種苗の1つであるところから、エダマメ専用の優良種の育成を

目次



えだまめ新品種
雪印種苗育成種ユキムスメ

<input type="checkbox"/> 寒地向——ニューデント	……表②
<input type="checkbox"/> 暖地向——スノーデント、パイオニア	……表③
<input type="checkbox"/> 新発表 エダマメ新品種ユキムスメ	中原 忠夫…… 1
<input type="checkbox"/> 飼料用F ₁ とうもろこし	
新品種 ニューデント 75日〔×22〕極早生	
ニューデント 95日〔×92〕早中生	
新系統 ニューデント 105日〔×122〕中生（早）	
の特性と栽培について	山下 太郎…… 5
<input checked="" type="checkbox"/> 飼料作物利用上における家畜の障害について	大森昭一朗…… 9
<input type="checkbox"/> 耐塩性の緑化用植物	岡田 晟……13

ねらいとして品種改良に着手した。昭和49年、極早生、白毛で食味のすぐれたサッポロミドリ（種苗名称登録263号）を発表し、その姉妹種として、草姿、着莢性、食味に目標をおいて育成してきたユキムスメは、各地での試作の結果も好評だったので名称登録を出願、本年9月、農産種苗法にもとづき種苗名称登録第322号に登録され、その優良性がみとめられた。

ユキムスメの特性

草勢は白鳥なみ

草丈は白鳥よりやや高く、分枝数は多い。草勢は白鳥に似ている。葉は鮮緑で広卵円形、大きさは中位、幼軸は緑で茎はやや細めである。白花、子実は豊円で白目、淡緑色、100粒重35g内外の美しい中大粒である。

莢の形状のすぐれた中生種

開花期は白鳥と同時期だが、生食適期は数日おくれることが多い。開花後32～33日で収穫適期に達する中早生種である。

莢は豊円やや大型で、3粒莢の大きさ6cmぐらい、実入りがよく揃う。1kg当たりの莢数、2～3粒莢こみで420～430莢である。莢はふくらみがよく美しい鮮緑色。莢の褪色期間に幅があって、白鳥

や三河島より収穫期の幅が広く、エダマメ栽培で一番問題になる労力配分の上で好都合である。毛茸は灰白色、やや多めだがおちやすいので問題にならない。

食味抜群

品質については鶴の子のような大莢で外観のすぐれた冷凍ものが常時でまわっているので一般に評価はきびしい。本種は鶴の子の血が入っており、食味はきわめてすばらしいものがあり、さらに莢の茹であがりの美しい点では申し分ない。

収量については各地の試験結果からみて、白鳥と同程度だが、1粒莢を除いた上物収量は多い。

栽培のポイント

作 型

本種は播種後80～90日で収穫のできる中早生種であるから、ハウスの促成から、露地の直播栽培にいたるまで、いずれの作型にも適する。

ハウスの促成栽培

11月下旬より3月にかけて播種され、2月から5月にかけて収穫される。11月より2月の真冬に播種しているのは、清水市三保のように、冬温暖で霜の少ない地帯にかぎられている。

冬季の栽培のポイントは育苗と、開花期の保温



収穫直前のユキムスメ

第1表 エダマメ作型基準

作 型	播 種 期	育 苗	取 穫 期	裁 培 の 要 点
ハウス促成	11下～2下	30日育苗本葉 $\frac{1}{2}$ 定植	3上～4下	促成キュウリの前作、開花期加温
早熟栽培	2中～3中 3上～4上	温床育苗 本葉 $\frac{1}{2}$ 冷床育苗	5下～7上 6下～7中	マルチ トンネル利用
露地栽培	4中～6中	直 播	7上～8中	発芽時ハトの被害多いので注意する。
抑制栽培	9中～10上		12～ 1	開花期加温

播種は収穫労力の配分から10日おきに数回にわたる。

管理に集約される。育苗で大事なことは短期間に発芽を揃えることと、若苗定植にある。播床は2重トンネル蕪がけだけでは不十分、多少加温が必要である。20℃～25℃に保つと4～5日で発芽が揃う。発芽したらつとめて換気して徒長を防ぎ、夜間だけ保温する。播種後25～30日たつて本葉がではじめると定植する。エダマメは老化苗では活着不良となり、莢つきも悪くなる。

定植後30～40日で開花が始まる。エダマメの開花結実に影響を及ぼす環境条件としては、日長と温度が考えられている。日長については、開花そのものへの影響は少なく、花芽分化、開花期前の発育に及ぼす影響の方が多し。温度と開花結実との関係は、20℃以下では着莢きわめて悪く、25℃を最適とし、日中25～30℃、夜間最低温度を13～15℃以上に保つことが大切である。開花期間中は保温につとめるとともに換気に留意し、また光線の質、量の影響も大きいので、保温のため二重被覆をしている場合でも、日中なるべくはずす様にする。冬季間は保温のため、加温が条件になり、この作型で着莢のよい品種はみあたらない。着莢をよくするためには加温なり、管理を綿密に行わねばならず、それだけ附加価値の高い、つまり品質のよいサッポロミドリ、ユキムスメがとりあげられる理由である。

ユキムスメはサッポロミドリより幼苗期の生育やや緩慢であるが、定植後30日くらいで開花をはじめ、更に35～40日で収穫できる。三保における試作結果によると草丈はあまりのびず、栽植距離も12cm角でよいということである。

露地栽培

ユキムスメは露地栽培の場合生育旺盛で、もともと分枝も多いので、畦幅株間を拡げ、少なくとも60×30cmの1～2本立とした方がよい。とくに莢をもいで出荷する栽培では株間を拡げて肥培す

ると、着莢多く、莢の肥大もよい。

密植でチッソ過多による過繁茂の場合や、水はけの悪いところでは菌核病におかされ易いので、肥培に注意することと、開花始め頃より薬剤散布を行う。またアカダニ、ヨトウの被害をうけやすいので初期の防除につとめることが大切である。

雪印種苗育成の優良エダマメ品種

雪印種苗ではサッポロミドリ、ユキムスメの他、多くの優良種を育成、紹介してまいりましたがこの機会にまとめてお知らせいたします。

○ 極早生 サッポロミドリ

種苗名称登録 第263号

白毛種として奥原なみの極早生。莢が大きく、豊円で鮮緑、食味はすぐれている。収量は短程のため多いとはいえないが、3粒莢割合がたかく、奥



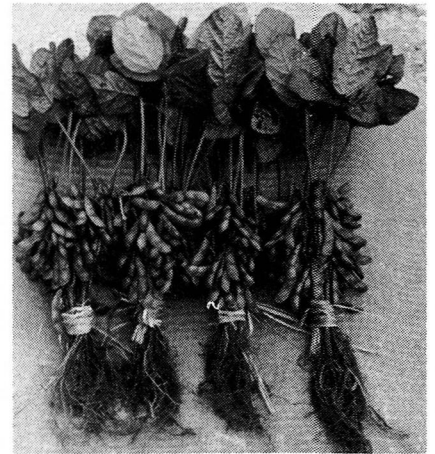
サッポロミドリ

第2表 えだまめ品種比較

S51北海製缶研究所

品 種 名	取穫	2~4粒莢取量/a		2粒莢		3 粒 莢		毛茸	莢
	日	重 量	比 率	割合	割合	1莢重	莢長		
小 袖	8.27	kg	%	%	%	g	cm	茶	ぎ劣
奥原1号	29	45.9	60	42.1	29.2	2.6	5.3	茶	ぎ劣
サッポロミドリ	30	49.1	64	48.0	31.3	3.0		白	良
大 黄 金	9.9	51.4	67	44.9	21.0	2.7	5.2	白	良
ユキムスメ	9	88.7	115	46.3	43.3	3.2	5.8	白	良
早 生 緑	9	66.9	87	46.2	36.2	2.9	5.7	濃茶	ぎ良
白 鳥	9	76.9	100	33.9	41.1	3.1	5.6	茶	ぎ良
三 河 島	15	63.9	83	63.2	9.8	3.2	5.4	白	淡
白 雪	17	67.7	88	42.2	38.6	3.3	5.8	白	良
ゆ う づ る	17	73.3	95	65.0	10.6	3.7	6.0	白	良

播種 5月24日 畦巾60cm 株間30cm 2本立



早熟栽培の白鳥

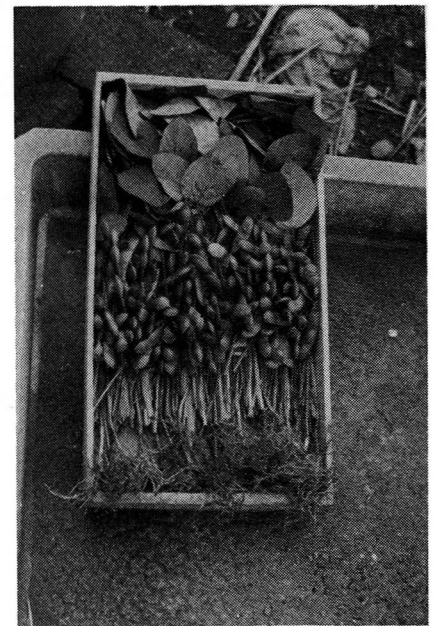
第3表 えだまめ品種比較

S51群馬県北部試験地

品 種 名	開花 期	熟期	草丈	分枝 数	上 物 取 量	上物 率	3 粒 莢 率	3 粒 莢	
								長	巾
北 海 1 号	7.5	8.7	60.1	3.7	a/kg	%	%	cm	cm
北 み ど り	8	7	61.9	4.9	733	94.1	35.1	6.8	1.3
○サッポロミドリ	8	7	58.4	4.4	862	89.9	35.2	6.4	1.3
早 生 み ど り	8	13	64.1	4.8	686	88.4	35.6	5.6	1.3
ひ す い	8	13	61.0	4.8	1,039	90.0	35.5	6.3	1.3
○ユキムスメ	8	14	63.8	5.6	1,145	89.4	36.6	6.3	1.3
○白 雪	8	14	61.5	5.9	1,152	89.2	26.4	6.3	1.3
け ご ん	8	14	61.5	5.9	862	89.8	32.1	6.7	1.3
夕 鶴	8	13	66.6	5.2	1,084	84.1	28.8	6.4	1.5
秋 錦	10	21	66.3	6.1	1,065	82.4	8.3	7.4	1.4
	18	24	95.5	6.0	1,430	89.1	11.6	6.4	1.4

播種 5月21日、定植 6月12~13日 畦巾×株間 45×30cm

原をうまわわっている。とくにハウス促成，早熟栽培ではきわめて強健で，温度の低いときでも2~3粒莢多く，子実の肥大がよいことから，各地で好評を得ている。



促成枝豆の箱詰出荷（三保）

○ 超極早生 姫 黄 金

エダマメ中の最極早生，草丈は小ぶりだが，莢は大きく，3粒莢が多い。莢色濃緑で食味はすぐれている。毛茸は褐色だが，トンネル，マルチ早出専用種。

○ 美園改良 新 奥 原

極早生枝豆を代表する奥原1号の弊社自慢の選抜改良種。草姿が整い。莢つきが良い。冷床での発芽，発育良く，各地の露地早春播用としての代表種である。

○ 中早生 大 黄 金

白鳥より1週間くらい早い中早生。莢は白毛で鮮緑，食味すぐれている。莢はやや小型だが，莢つきよく，分枝少なく草姿のよい豊産種。

○ 中 生 白 雪

白毛，中生種として莢は最大，濃緑で，3粒莢多い。とくに莢もぎ出荷に適し，生食，冷食向の自慢種である。